

紫藤通信

第58回紫藤祭 華やかに幕

9月19日~20日



第58回紫藤祭は九月一九日(土)・二〇日(日)に実施された。今年のテーマは、甘美記念(ようこそ甘い夢の世界へ)。華やかな展示、模擬店や発表が紫藤祭を盛り上げた。今年は、装飾に優劣のつけがたい立派なものが多くみられたのが特色だった。オープニングでは、パト



トワリング部・鳴子連が演技を披露し、紫藤祭の気分を盛りたて、書道部がテーマをパフォーマンスによって一気に書き上げた。
文化祭実行委員は夏休みを返上して準備に取りかかっていた。校門には工夫をこらした歓迎門がつけられ来校者を迎え入れた。

体育館では、三年五組英語総合コースの英語劇「不思議の国のアリス」―眠れる森の美女―の2つの演劇が上演され、日頃の研究成果を発揮した熱演が感動を与えていた。パトントワリング部は、安定した美麗な演技が観客を惹きつけ、吹奏楽団は、ポップスを中心に演奏、聴衆と一体となっていた。最近実力を急速につけているダンス部は、オリジナリティの高い軽快なダンスで観客を魅了した。ファッションショーは二年生の授業の成果

発行所
山村国際高等学校
坂戸市千代田1-2-23
☎ 049-281-0221

印刷所
望月印刷株式会社

<http://homepage2.nifty.com/yamakoku/>



を披露、スポットライトに映えた作品は独自の世界を生み出し会場に感動を与えていた。また、開場前から長蛇の列ができた恒例のチャリティーバザーは二〇日に調理室で行われ、福祉委員、福祉部員は手際よく応対を行っていた。この売り上げはフィリピンのドラグダグ小学校への薬品支援や埼玉聴覚障害者福祉会の活動支援に送られる。生徒会は地雷撲滅キャンペーンのため募金活動を行った。この募金はカンボジアの地雷撤去の資金として使われる。

新型インフルエンザ対策のため全員がマスク着用という異例の開催であったが、大きな混乱もなく無事閉幕した。

各賞の受賞団体は次の通り。

- 紫藤賞 三二二
- 教員賞 三一三
- 装飾賞 三一五
- 企画賞 三一三

蜻蛉

「経緯」とは、事物の総体を指す言葉である。具体的には、「経」とは織物のタテ糸を、「緯」とは同じくヨコ糸を示す。特に「経」は、途切れることなく続いてゆくもの、時間・思想・歴史などを包括する理念である。中国から伝わった「五経」は、この経(ケイ)の理念を表現して明解である。宇宙の成り立ち(陰陽)を説く「易経」、易を受け継ぎ歴代の聖人(帝)の言行を記す「書経」、民衆の心を詩として伝える「詩経」、儀礼の内容を記す「三礼」、具体的な歴史を伝える「春秋」(三伝)。儒教の大系は、この「五経」を骨格として「中」と「仁」の世界観を後世に引き継いでいる。孔子の理念に負うところの大きいこれら「五経」は、「四書」(論語・孟子・大学・中庸)の思想的な肉付けを経ながら、より細密な中国の史書のはじまりである「史記」に継承されてゆくことになる。脈々とつながってゆく中国「経」のタテ糸に思いを馳せながら、日本の現実を目を向けてみることも悪くはない。私たちが日常に使用する「経」を含む熟語が有つ本質的な意味が、浮かび上がってくるはずである。

新校長に

牧 幸 夫 先生



就任にあたって

今年度四月に船津和信前校長の後を受けお世話になっていきます。今までの勤務場所と異なることも多く、戸惑いながらでしたが、皆様方のご支援とご協力をいただきながら五ヶ月が過ぎ去りました。

本校に就任させていただいて、最初の印象は先生方の生徒に向き合う姿勢の丁寧さと、透明感のある明るい笑顔で挨拶する生徒が多いことでした。このような学校の雰囲気は、勤務したばかりで緊張していた私の心をたいへん和らげてくれました。

生徒達を見ていますと、自分の高校時代を思い起こしますが、私が高校生として過ごした時代は、経済・科学技術文化その他あらゆる面で急速に成長した時代でした。戦後の復興も進み、生活の豊かさを各家庭で少しずつ実感でき、再び先進諸国と肩を並べられる国になろうという意気込みを持って多くの国民が生来の勤勉さを発揮して頑張っていた時代でした。高校二年生の時の「東京オリンピック」の開催や、「東海道新幹線」の開通などは、そのような国民の心をさらに元氣付けました。このように国民の多くが前向

きの気持ちに満ちていた時代に、自分の将来の生き方について考え決定していかなくてはならない年代を過ごすことができたことを幸運であったと思っています。

この頃は大学紛争も続いていましたが、今振り返ると、理想を求めることができた学生達のエネルギーの現われであったのかとも思います。

しかしながら現在はバブル経済の崩壊以来、不況から抜け出すことができず、昨年から今は世界同時不況に入ってしまったいました。そして少子高齢化・環境その他大きな課題が立ちはだかっています。このため、若者たちが夢や目標を抱きにくい時代となり、さらに不況に伴う労働環境の悪化は、生活することさえ厳しくしています。

この生活背景は、若者たちの心に大きく影響し、社会的な問題行動や人としての在り方・生き方に現れ、今後が心配な人を多く見受けられます。

人を育むという役割で学校は多くの部分で関わっています。各学校ともこの状況を受けて色々対応してきましたが、さらに抜本的に改善を図ろうと「教育基本法」が三年前に改訂され、教育の進め方について、いままですべて示されてい

なかったものが多く盛り込まれました。このために、学習指導要領も含めて多くの関連する法令を改訂し、現在学校に降ろされつつあります。

この基本法の改訂で、新たに「教育の目標」が明示されました。

その目標に示されているものの中で、次の部分は今までにはなかったものです。

- ・豊かな情操と道徳心、創造性を培う。
- ・正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる。
- ・公共の精神に基づいて社会の形成に参画し、発展に寄与する。
- ・自然を大切にして、環境の保全に寄与する。
- ・我が国と郷土を愛し、他国を尊重する。

戦後六十四年、生活環境の変化は、人の心を変え、価値観を変え多様化しました。しかしそのことにより、人間相互が生活する上での課題が多くなり、改善を図っていく必要が現れてきました。

本校におきましても、このような指摘を受け止めて、日頃の教育活動に取り込み、生徒の健全な成長を願って実施して行きたいと思っています。人が育てられる場所の多く

は、家庭・学校そして地域社会ですが、この三者が連携し合いながら教育を進めるべきであるということは色々な場所で度々言われています。このことから改訂基本法では、家庭教育の役割と責任についても明示しました。

その内容は、
・父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。というものです。

一九六〇年頃から徐々に高まってきた高学歴志向は、現在に至っては高校進学率を約九十八%までに押し上げてしまいました。この四十年を超え、高学歴志向の中にあつて、家庭教育はすべての教育の出発点であり、基本的な倫理観や社会的なマナー、自制心や自律心などを育成するということ重要な役割を忘れてしまっているように感じます。

より安全で安心な生活ができる社会づくりの一員に、本校の生徒が成れるように、機会ある度に努めて行きたいと思えます。そして今後のご指導とご支援さらにご協力をお願い申し上げます。

4月10日～12日

新入生研修を実施

—白樺湖—

四月七日、本年度の入学式が挙行政され、215名の新入生に対し入学が許可された。名前も顔もまだわからない3日後、「クラスづくり、友人づくりは、風光る白樺湖から～」をテーマに新入生研修へと出発した。

四月十日(金) 晴れ 若葉駅前に集合。不安と期待の両方を抱えての二泊三日の友だちづくりのスタートだ。事前に様々な注意が担任から話された。緊張しながらも元気に二・四名(当日欠席者一名)がバスに乗り込み予定通り出発した。バスの中では校歌のCDが流されたり、担任からこれからの日程の再確認が行われた。昼過ぎに「八子ヶ峰ホテル」に到着し、荷物を各班毎に部屋に置き昼食会場へ移動、ホテル内の生活が始まった。食後すぐに集いの館に集合、団長と学年主任の講話、そしてホームルーム活動へと別れて行った。

四月十一日(土) 晴れ 研修二日目は楽しみにしていた飯盒炊きである。火が上手に付くか。お米は芯がなく炊けるだろうかと心配しながら始まった。ホテルのスタッフの協力を得、どの班も順調にスタート。カレーのじゃがいもも大小いろいろな班があり、ルーも水と分量が合わなかったり、悪戦苦闘していたが、全班とも自分達の作ったカレーライスを食べる事ができた。片づけも冷たい水で辛かったが最後まできちんと出来て感心した。その後、校歌練



平成21年度入学式

四月十二日(日) 晴れ 最終日は和紙の里での「うちわ作り」である。一時間半をかけ、思い思いの絵柄のうちわが出来上がった。不安で一杯の三日前とは違い、友人も出来笑顔で帰宅して行く姿に安心し、自分の目標に向かって、充実した三年間を送って欲しいと願った。

(第一学年主任)

三年。パワー炸裂

球技大会

五月八日、新入生を歓迎し、二年生・三年生の新しいクラスとの親睦を深めるために球技大会が行われた。

種目は、バレーボール。チームは男女混成で、コートに入る人数は六名とし、男子は三名までとした。1試合は3セットマッチとし、ラリーポイント制で15点先取したチームの勝ちとした。但し、3セット目は14点以降2点差がつくまで。ネットの高さは2m 15cmとした。

以下、各優勝チーム。

- Aコート** 三年二組Aチーム (女子) 善田早紀、坂脇由真、阿部加菜恵、(男子) 三田幸大、大平洋祐、堀越仁郎。

- Bコート** 三年一組Bチーム (女子) 河野愛里香、西川菜美、石川光、岸田美優、(男子) 佐藤由佑、清水湧太。

- Cコート** 三年四組Aチーム (女子) 阿部愛、大上裕美子、大野靖佳、工彩香、福田香奈、(男子) 倉島舜、佐藤昇、鈴木翔平。

- Dコート** 三年七組Aチーム (女子) 奥富真緒、松平七海、小谷翔子、相馬菜摘、小林百合、枝元ことは、(男子) 野原尚起、谷川曉。

- Eコート** 三年七組Bチーム (女子) 市川梨紗、澤田詩織、寿福里亜奈、柳澤泉、(男子) 大貫友吾、後藤幸慶、高橋達郎。

- Fコート** 三年六組Aチーム (女子のみ) 新井真美、磯田瑠菜、大沼真美、木村華保、小峰永子、見崎美帆、宮垣愛美。

- Gコート** 三年一組Aチーム (女子) 太田夏見、田中梓、西尾瑛穂、(男子) 梶原悠、豊田龍平、前寺一樹。



第54回 体育祭

6月5日

2位 2-1 3位 3-3

3年7組に優勝旗



memories over points

記録より記憶をテーマにした第54回体育祭が行なわれた。今年も、場所を坂戸市民総合運動公園 第一多目的グラウンドに移し、いつもとは違う盛り上がりを見せた。

当日は、いつ雨が降ってもおかしくないような雲空。この日の為に準備をしてきた体育祭実行委員、優勝目指して練習を積んできた生徒達の気持ちを通じたか、雨は降り出さず開会することができた。

実行委員長 須田岳君、副委員長 荒井眞美さんの選手宣誓で戦いの火蓋が切って落とされた。

最初の種目「障害物競走」では、風船をふくらませて割ることが出来ず苦戦するチーム、いとも簡単に割って快走するチームに分かれた。

「部活対抗リレー」は、各部のアピール合戦。表彰されたのは、ラジカセを持って走り、ダンスを披露していったダンス部であった。恒例の「バットマンレース」「白い恋人達」では、笑いにつまれ会場を大いに盛り上げた。そして午前中の最後

は体育祭の「華」である「三年生ダンス」。体育科の原田先生の指導の下、何度も何度も練習を重ねた演技を俵田來未の「キューティーハニー」、EXILEの「銀河鉄道999」などの曲にのせて躍動感あふれるダンスを披露した。また今年も、三年担任の小松先生、鴨志田先生も参加し、生徒と共に大きな拍手を受けていた。後半の途中小んとか持ちこたえていた雨がパラパラと降り出し、毎年壮絶な戦いになる「棒取り」などが中止になる中、競技は進められた。「騎馬戦」では、三年生の圧倒的な強さが見られた。「学年対抗リレー」「クラス対抗リレー」では、選ばれた精鋭達が健脚を競った。今年もトラックも広く、例年になく見応えのあるレースが多く展開された。

各クラスが全力を出しきった戦いは、抜群のチームワークで、ほとんどの競技で一位をとった三年七組が優勝した。雨の為に中止になった競技もあり残念であったが、いつもとは違い広いグラウンドで行なわれた記憶に残る体育祭であった。



坂戸よさこい 6度目の熱い夏

鳴子連



『山国(やまこく)の熱い夏守ります』というキャッチコピーのもと、三十数名の有志が集い、山村国際高校鳴子連は八月二日から三日に開催された坂戸よさこいに出場した。今回は六年連続六回目の出場となる。昨年は学生団体初の受賞チームとなったこともあり、今年もチームは受賞を目指し、リーダー(河野愛里香さん(三十一)、サブリーダー(善田早紀さん(三十二)、坂戸泉中)を中心に過去最大の練習をして本番に臨んだ。当日は、高校生らしい元気のよさと、チームワークのよさを表現でき、楽しそうに踊る姿は沿道の皆様から大きな拍手をいただいた。残念ながら受賞はできなかったが、今年が一番上手だったことは間違いない。『記録には残らなかったが記憶に残る三日間となった。鳴子連のメンバーたちよ、感動をありがとう。暑い中、御声援賜りました。』

参加して損はない——
練習は夏休みが中心で、暑く疲れのし大変だったけど、踊れるようになると楽しくなるし、本番で知らない人に応援されるとうれしくなるし、新しい仲間ができたり、参加して損したことは一つもありません。

——去年からやっておけば——
初めは恥ずかしいしうまくできないし、でも踊っていくうちに仲間が増えたり楽しくなってきた。最終日はこれで終わりになってほしくないと思うほどになりました。こんなに楽しく感動的なんだったら、去年からやっておけばよかったなと今は思っています。

——よい思い出に——
昨年よりも楽しく踊れました。笑顔で踊れました。仲間と楽しく踊れました。

皆で一つのものを——
一つのことを皆で力を合わせて作りあげることのすばらしさを体験できました。

——皆に支えられ——
大変だったこともあるけど、仲間励まされ、助けられ、達成感を得ることができました。

——とにかくありがとうございます——
仲間、先生、親、先輩、声援をくれた人、皆ありがとうございます。

保健室より

皆さん、こんにちは。産休に入られた倉林先生に代わり、4月から養護を担当している堀井寛子です。寛子と書いて「のりこ」と読みます。皆さんとは年齢も近いので、話しの内容や考え方が近いんじゃないかなあ、と勝手に思っています。たまに校内をウロウロしながら、いきなり皆さんの会話に参加するかもしれません。そんな時は仲間に入れてくださいね！逆に、私を見かけたら気軽に声をかけてくれると嬉しいですよ。

さて、いきなりですが皆さん。最近ぼーっとしてますか？毎日忙しく日々を送るのも充実しているということ、とても良いことだと思います。ですが私は少しくらいぼーっとする時間を持つのも良いことだと思います。そうすることで、使っている頭を休めることになり、気分転換にもなります。外に出て、空を眺めてみるのも気持ち良いですよ！私はなぜか口が開いてしましますが…不思議です。これからの季節は暑くもなく、ちょうど良いと思います。気が向いたら試してみてください。あ、でも少しの時間ですよ！長すぎるとサボリ癖がついてしまいますから！体調にも気を付けましょう！



バトントワリング部 15回目の出場

全国高等学校総合文化祭



七月二十九日から四日間の行程で平成二十一年度全国高等学校総合文化祭に出場した。今年は、三重県伊勢市でバレードとバトンの

演技発表が行なわれた。バレードは年々海外の高校生の参加が増えており、今年は韓国その他にラオス、ブラジルからの参加があり、総勢二〇〇名のバレードとなった。バトンの演技発表は昨年度の全国大会と同じ「Liberty」自由へのテーマ。三部構成でストリーリーを感じさせる演技である。新生を加え、新チームは十一名。ラストのミスに今後の課題は残すものの、上々の出来であったと言える。関東のソロコンテスト等で個々の技術力向上がみられるようになってきた。夏場を乗り越え、個々の能力を集約し、V奪回に向けて突き進んでもらいたい。今年度県大会は九月十三日(日)、「さいたまスーパーアリーナ」にて開催される。



部活の動き

小林女子主将 善戦 剣道部

平成二十一年度インターハイ男子団体県予選会。第一コートの第一試合で昨年度優勝の本庄第一高校と対戦した。副将を終えて0対0のまま、大将戦へと突入した。大将大槻君の相手は昨年度埼玉県チャンピオン、勝負は最後までもつれたが、前半に取られた一本で決まった。

女子は二回戦で松伏高校に代表戦の末、敗退した。

◎その他の大会

- ・西入間剣道選手権・高校女子の初優勝、小村真奈美③
- ・西部地区大会女子個人ベスト8、小村真奈美⑤山口りお③山中梨愛②
- ・関東大会件予選会 男子団体三回戦選出。女子二回戦。
- ・山内旗争奪全国高校剣道大会、男子二回戦、女子二回戦。
- ・玉竜旗剣道大会 男子二回戦、女子一回戦。

活動報告

サッカー部

学校総合体育大会兼高校総体西部地区予選

2回戦	対 豊岡	3-0	勝
代表決定戦	対 朝霞西	0-2	負

U18リーグ戦

対 埼玉平成	2-2	分
対 川越	2-1	勝
対 西文理	0-3	負
対 大井	0-2	負
対 坂戸西	0-1	負

U16リーグ戦

対 川越	1-0	勝
対 入間向陽	3-1	勝
対 狭山清陵	6-1	勝

全国ユースFEST in ひたちなか

対 日本学園A	3-0	勝
対 駿台学園U16	2-2	分
対 高崎健康福祉大学高崎	1-1	分
1次予選2位		
対 宇都宮商業	3-0	勝
対 湘南工科大学付属B	1-0	勝
2次予選1位		
決勝戦		
対 湘南工科大学付属A	0-2	負

狭山フェスティバル

対 大井	5-0	勝
対 鷺宮	10-1	勝
対 狭山経済	1-1	分
対 所沢北	6-0	勝
対 所沢商業	2-1	勝
対 所沢	3-0	勝

全国高校サッカー選手権

1回戦	対 蓮田	4-0	勝
2回戦	対 正智深谷	1-8	負

元全日本監督 講習会に参加

バレー部

バレーボール部は、八月十七日、精神力、技術力、体力の向上の一つとして、元全日本女子バレー監督の吉川氏による講習会に参加した。アシスタントとして、吉川氏の奥様で、元全日本選手の旧姓津雲さんも指導にあたってくださり、日頃の練習姿勢、練習方法はもちろん、精神的なことまでていねいに教えてくださった。

卒業するまで部活を続け、一つでも上の成績を目指すバレー部にとっては、貴重な一日となった。

活動報告

女子ソフトテニス部

5月 関東大会県予選 (団体戦)

7月 団体予選 (個人戦)

9月 新人大会 (個人戦)



好演に
優良賞
吹奏楽団

八月六日、吹奏楽団は第五〇回埼玉県吹奏楽コンクールへ出場し、優良賞を受賞した。一年生六名を新メンバーに加えての演奏となった。演奏の表現力や技術の向上に加え、団員の気持が一つになっての演奏に審査員の高評価を得ることができた。

その他の活動
入学式、研究発表会、第一二回日本管楽合奏コンテスト予選審査会出品、埼玉県私立高校フェスティバル出演。

活動報告

書道部

・第四十八回

硬筆中央展覧会

特選賞

優良賞

林 愛喜

水嶋真代

坂脇由真

志村梨絵

中村理美

秋池 葉

福島静江 三年

林 愛喜

水嶋真代

坂脇由真

志村梨絵

中村理美 二年

秋池 葉

・第十四回

埼玉県書道芸術展

川越市長賞

推薦賞

特選賞

水嶋真代

林 愛喜

林 愛喜

坂脇由真

インターハイ

予選に臨む

男子ソフトテニス部

大会結果

6月 学校総合体育大会兼全国高校総体県予選

男子個人戦

小野・早川組2回戦進出

7月 埼玉県選手権西部地区予選

予選

「白井・紫藤」「山崎・永倉」組2回戦進出

「白井・紫藤」「山崎・永倉」組2回戦進出

ダンス部

高校生ダンスコンテスト09夏
準優勝!!
8月23日



冬に行われた同大会では残念ながら入賞できなかった。その悔しさを糧に、そして3年生最後の大会ということもあり、優勝を目指してこれまで地道に練習してきた。また、振付・構成も3年生を中心に行った。

今回の課題は「表現力」。たとえ技術があっても、豊かな表情で踊る楽しさを表現できなければ、優勝はおろか入賞もできない。とメンバーで意見を一致させ本番に臨んだ。結果、優勝を逃したものの、40チームが戦った中での準優勝であり、メンバーたちは充実感を得ると共に次回こそは「優勝」とチーム全体の団結力を高めることのできた大会となった。

メンバー
3年 坂寄 優 江口 綾
平井智恵美 飯塚侑乃
2年 増田菜季
種子田さなえ 鈴木彩恵子
1年 橋本夏苗 福田裕里亜

また、同二十六日には、二年生10人による新チームが、パルテノン多摩において行なわれたDance Stage Project 2009 決勝大会に高校生ダンス部部門初出場を果たす。

ビデオ審査を通過した50校による予選大会を勝ち進み、決勝大会に出場する9校に選ばれた。惜しくも入賞は逃したものの、3年生のいないチーム編成は初めてであり、不安と緊張の中、千人以上の観客の前で踊りきったことは部員たちの自信とチームワークを深め、今後に繋がる舞台となった。

その他の記録
・第13回埼玉県高等学校ダンス発表会参加
・女子栄養大学ヘルシーラインフェスティバル準優勝
・Dance Stage Project 2009 決勝大会出場

・埼玉県高体連
・所沢ヒップホップ
・よみうりランド
ダンス合宿 参加
フェスタ出場
ステージ発表

進路目標の実現へ

進路指導部

21年度の進路目標

昨年度の進路実績（現役生のみ）は、四年制大学51%・短期大学20%・専門学校23%・就職者2%・浪人2%・留学その他2%だった。この結果を、過去の実績と比較してみると、四年制大学への進学者が年々増加傾向にある。また、四年制大学の合格校も、中堅校以上のいわゆる難関校への合格者と、国公立大学への合格者が大幅に増えてきた。

以上のような状況をふまえ、今年度の進路目標として以下の3点を掲げて取り組んでいる。

(1) 職業・資格・上級学校について知る

特に、1・2年生への指導を重点的に行う。具体的には、①クラスにおける進路学習で、

職業や資格について、テキストやビデオ等を使って学習する。

②各分野の専門家を招いて、講演や模擬授業や体験学習を定期的に実施（これまでに、1年生入学時・夏休み前に、1年生入学前14講座）

③毎月体験学習（カルチャー講座）を実施（これまでに、公務員講座・接客マナー講座・美容メイク・グルーミング実習を開講）

大学の説明会を校内で実施（これまでに、山村学園短大・東洋大学・東京電機大学・十文字学園女子大学を招聘）

④1・2年生特進クラスの生徒を対象に、キャンパスバスツアー（早稲田大学・東京大学）を実施した

(2) 中堅大学（日東駒専レベル）の合格者を増やす

今年度は、土曜セミナーを31講座、夏期校内セミナーを35講座開講している。このセミナーの中に『受験〇〇』と銘打った講座において、一般受験の指導を集中的に実施しており、目標実現に向けて全力で取り組んでいる。

(3) 国公立・Gマーチの合格者を増やす

20年度	8	16
19年度	0	10
18年度	1	2
	国公立	Gマーチ

3年間の実績だが、20年度に増加したことが分かると思う。これは、20年度生が入学した3年前からこの目標を掲げ取り組んできた成果が出始めたと考えられる。この数値を昨年度以上に上げて行くことを、3つめの目標として掲げている。

に託したい。

そして、高校野球を通じて、選手達が謙虚さや素直さ、感謝の気持ち、責任感や協調性、忍耐力、闘争心を持つことができるように指導していきたい。

多くの方から応援されるチームを目指し、選手達と一緒に焦らず一歩一歩前進していこうと考えているところである。

(野球部監督 伊藤 剛)

オープンキャンパスと体験学習

一 オープンキャンパスは、七月十一日（土）心配されていた天気も次第に青空を覗かせ始め、入場者は昨年より約百名近くも多く、二十五の開講講座は各所で賑わいを見せていた。ユニークな「吹き矢体験」や「金魚すくいの極意伝授」コーナー、体育館ではダンス教室やバトントワリングに挑戦する者、「サーブを打って商品ゲット」のバレーボールなど。一方、受験対策講座では二年度入試を控えた中学三年生とその保護者の熱心な受講態度が印象的であった。一部を除き、殆んどが体験の講座であったが、参加者の殆んどが「楽しかった」「良い経験ができた」の感想を残して校門を後にしていた。

二 体験学習は、夏休み中の中学生全学年を対象に、八月十九日（水）から二十一日（金）の三日間、十科目を二十一コースに分けて実施された。参加者は二百名を超し、中には毎日受講科目を替えて三日連続参加の熱心な生徒もいた。また、バレーボールと剣道はセレクションも交えての体験学習だったので参加生徒の目つきも真剣そのものであった。

三 オープンキャンパスと体験学習を終えて両者に共通して感じることは、各コース・各科目担当の先生方の生徒一人ひとりに合った熱心な教え方と指導、助手として支援してくれた本校生徒達の親切で優しい対応が、参加者全員に「参加して良かった」の感動を与えたことである。



野球部始動

平成二十一年四月、山村国際高校に野球部が創設された。部員は皆、一年生。中学校時代の経験者三人と未経験者三人、マネージャー一人の計七人でのスタートである。人数は少ないが、ハンドレとならないよう、校内のグラウンドや屋上で基礎練習と体力作りに励んでいる。週に四日間は、バ

イオニア野球部の練習グラウンドで、キャッチボール、ノックなどを行い、技術的な練習を開始している。

来年五月には専用グラウンドが完成予定である。広いグラウンドで練習ができることを待ちわびているところである。

私にも夢ができた。甲子園に連れて行くという夢。大きな夢はあるが、自分が叶わなかった甲子園出場を選手達



体験学習

(生徒募集室)